

教育の今日的課題

- ・豊かな人間性や社会性の育成
- ・自ら学び、自ら考える力の育成
- ・社会の変化に主体的に対応する力の育成
- ・特色ある学校づくり

道徳教育の指導の重点

- ◆人権ならびに生命尊重の精神に基づき、話し合って考えることを通して、自分ならどうするかを考え他者との関わりの中で規範意識や道徳性を高める。
- ◆道徳的価値を理解し、考えを深める学習を通し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

外国語活動・外国語の指導の重点

- ◆全学年で外国語活動・外国語を行い、コミュニケーション能力を育成する。

各教科の指導の重点

- ◆個に応じた指導の充実（補充・発展）
- ◆習熟度別学習（算数）の充実を図り、基礎・基本の指導の徹底を図る。
- ◆発展的な学習への取り組み。自分の考えを友達に伝え合うペア学習で論理的思考力を育成する。
- ◆体力テストの結果を分析・活用して運動への関心を高め、体力向上を図る。また、毎週1回「元気アップタイム」を行い、運動に親しむ児童を育成する。
- ◆一人一人が自らの考えをもち、言語活動を通して交流する過程を重視し、主体的・対話的に学びに向かう力の育成を図る。
- ◆ICT 機器・一人1台のタブレットを活用した指導の工夫

学校教育目標

- 勉強大好き 馬三の子
- 友達大好き 馬三の子
- 運動大好き 馬三の子

学校経営の基本方針

- ◎子供たちのためにできることを（当たり前のことを当たり前に）
- ◎チーム馬三（一人一人の持ち味を生かした組織力）

授業改善スローガン

児童一人一人に
学ぶ楽しさを実感させ
確かな学力を付けよう

本校における「確かな学力」

- ◆基礎的・基本的な力
知識・技能
- ◆問題解決する力・活用する力
思考力・判断力・表現力
- ◆主体的に学ぶ力・共に学ぶ力
意欲・心身の健康・自他の尊重

プランの実効性を高めるために

- ◆児童の実態や学力調査の分析から、身に付けさせたい力・指導の重点の明確化を図る。
- ◆「チーム馬三」の意識を共有し、失敗が許され、チャレンジする意欲がわく授業を実践する。
- ◆友達との交流の中で自分の考えを深める授業展開の工夫を進める。

課題解決に向けての取組

- 知
 - ・日々の授業の工夫と充実による基礎学力の定着
 - ・学習協力者の活用を推進及び、体験学習の重視
- 徳（心）
 - ・自主性・粘り強さ・社会的規範の育成
 - ・特別の教科「道徳」を中心とした道徳教育の充実
- 体
 - ・生命尊重・積極的な体力づくりの重視
 - ・外部講師と連携した食育・健康教育の推進

総合的な学習の時間の指導の重点

- ◆児童の主体的な活動を通し、力強く豊かに生きていく資質と能力を育成する。
 - ・人やものとかかわる力
 - ・自ら調べ考える力
 - ・挑戦する力
 - ・表現する力
 - ・学習を生活に生かす力
 - ・実体験

特別活動の指導の重点

- ◆縦割り活動の日常化により、集団への帰属意識や連帯感、高学年としての責任感等を培う。
- ◆学級会を中心とした話し合い活動の充実
- ◆児童自らがクラブの設立を行うことで、自主的・実践的な態度を育て、より一層の個性の伸長を図る。

生活指導の重点

- ◆小中一貫教育を見通した3項目の指導
 - ・あいさつ
 - ・正しい言葉づかい
 - ・物を大切にする
- ◆週1回の生活指導夕会や、各学期1回行う児童理解の会で、いじめ・不登校などの早期発見・早期解決に努める。

本校の学力向上に向けた視点・授業改善の視点

内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
◆一人一人が学ぶ楽しさを実感し、主体的な学習ができるように、教材の工夫、環境整備、体験的な活動を多く取り入れ、教科の特質に応じた「見方・考え方」に基づいた学習計画を立てる。 ◆算数では少人数担当教員を中心に学年での打ち合わせを密にして指導計画を立て、個に応じた指導の充実を図り、基礎・基本の定着を図る。 ◆土曜教室と毎週行う水曜教室で、基礎学力の定着を図る。 ◆東京ベーシックドリルを活用し基礎基本の定着を図る。	◆朝の学習（馬三タイム：8時25分～8時35分）を活用し、漢字や計算練習・「書くって楽しいね」・読書活動を行う。 ◆学期ごとの予定時数を設定し、各教科・領域の指導が適切に行われるようにする。 ◆算数では、全学年でステップ学習を行い、確かな学力を身に付けさせる。また、3年生以上では、算数少人数担当と学級担任が連携し、児童の学習のつまずきに応じてアドバイス等の支援を行う。	◆「自ら考えずんで表現する児童の育成～理科・生活科の授業を通して～」をテーマに、児童に身に付けさせたい力を「自分の思いや考えを相手に伝えるように表現する力」、「自らずんで考え、学ぶ姿勢（主体的に学ぶ力）」として、「見方・考え方」を重視して校内研究を進める。 ◆発達の段階を意識しながら理科の学習の流れを全学年で共通化させる。「つながる理科の考え方」の流れに沿って学習し、児童が見通しをもって学習できるようにする。 ◆「理科だよりを」発行し、生物・天体などの生態環境に興味・関心をもたせる。	◆教師が、観点別に評価し、さらに外部評価や児童によるふりかえり（自己評価）を行う。 ◆保護者アンケートを実施し、改善できるものについては、新学期に活用する。 ◆学習効果測定の結果について、学習カルテを活用し、児童、保護者、教師で共有する。学習カルテを使って分析し、今後の学習に生かす。	◆基本的な生活習慣の形成に向けて工夫する。（歯磨きカードや健康チャレンジ週間） ◆基本的な学習習慣の形成を図り、小中連携を図った指導を行う。 ◆保護者会を活用し、家庭に向けて、家庭での学習習慣の定着に関する協力を依頼する。（家庭学習の時間は、10分×学年数をめやすとする） ◆地域の方々等をゲストティーチャーとして招き、体験的な学習を行う。

